

# 緑の架け橋

会報第9号

2007年1月31日

第5回センター総会を開催〔2006年11月14日〕

## 寧夏回族自治区における活動を拡大

## 中衛市・平羅県での植林事業も順調に！

### ～第6回植林緑化派遣団（2006年10月）報告も行われる～



中衛市の植樹記念碑の前で、現地ボランティア中学生とともに 2006/10/15

### 「緑の大地へ」ゆっくりと着実な前進と日中友好の架け橋づくり

緑の架け橋推進センターは、2006年11月14日、10月に実施した第6回植林緑化派遣団の報告会を兼ねた第5回総会を開催し、4年次目の取り組み経過を全体で確認するとともに、新年度の活動計画・予算を決定しました。

昨年度は、4月の第5回植林緑化派遣団を実施した際に、新たな事業地である寧夏回族自治区・中衛市における「日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト」の开工式を盛大に実施しました。また、10月の第6回植林緑化派遣団では、緑の架け橋推進センターの最初のプロジェクト地である紅寺堡を訪れ、「寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト」のその後の保育状況を確認することができました。

今号では、第6回植林緑化派遣団報告とあわせて第5回総会での決定事項をお知らせします。

引き続き、緑の架け橋推進センターの活動にあたたかいご支援・ご理解をいただくとともに、新年度の活動にも積極的な参加とご支援をお願いします。



緑の架け橋推進センター

中国植林緑化活動協力事業

寧夏日中青年平羅県生態緑化林事業／日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町333辻ビル405 TEL.03-3268-4387 FAX.03-3268-6079  
口座：中央労働金庫市谷支店（普）0858119. 郵便：00130-9-425994

※本会報は事業主催（IFCC）の植林プロジェクト特集となります。



## 植林5年目で、成果と課題を考える

緑の架け橋推進センター  
会長 佐藤晴男

緑の架け橋推進センターは、2002年に結成して5年を経過しています。

寧夏回族自治区の3ヶ所（紅寺堡、平羅県、中衛市）に、この間、緑化植林派遣団を6回、調査団を3回実施し、参加者数は延べ119人で、その植林面積は590ヘクタールに及びました。もちろん、私達の植林参加は、植林活動のきっかけになる記念植樹であり、その後の圧倒的広大な面積は地元の児童を初めとするボランティアや、地域の人達です。

あの広大な中国大陸の沙漠地帯ですから690ヘクタールといえども、ほんの点にしかすぎない植林実態だと思います。3ヶ所（紅寺堡、平羅県、中衛市）とも、異なった沙漠であり地形ですので、地域ごとの特色ある植林が進められています。

しかし、共通して言えることは、生態緑化の改良は単に防沙（砂）のための植林にとどまらず、薬草（樹）、果樹、野菜等の換金作物の栽培可能な地質（土壌）にすることや、街の形成までを企画できる地形になることを目指しており、その変化は、この5年間余りで着実に前進してきていることを眼のあたりにしています。

また、5年も経つと今まで経験したことのない課題も浮上しています。それは、3ヶ所の現状とも自然条件が厳しい故に灌水の徹底は欠かせず、枝打ち、除草等の管理作業と、野ねずみ対策、そして何よりも乾燥地帯故に火災に対する防火意識の向上と防火体制の整備・確立等が緊急な課題です。

それだけに、植林後のアフターケアとして現地探索と人的交流をたえず継続することが必要になると思われます。

今年度も、平羅県3年目の最後の植林と、中衛市の2年目の植林派遣と併せて、植林した樹木の成長を見届ける現地探索を「友の会」（旅費の個人積み立て、又は一括で可能）方式で9月頃に企画したいと考えています。緑の架け橋推進センターの会員拡大と併せて多くの参加者を募ります。



第5回総会で挨拶する佐藤会長

### 【これまでの「日中緑化交流基金助成対象」植林面積】

紅寺堡（2002年～2005年）	300ヘクタール	※2005年に終了
平羅県（2004年～2007年）	290ヘクタール	※3年目終了時点で
中衛市（2005年～2008年）	200ヘクタール	※2年目分まで

### 寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業／日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業

事業主催団体	IFCC 国際友好文化センター	事業助成団体	日中緑化交流基金
推進協力母体	緑の架け橋推進センター	中国側カウンターパート	中華全国青年連合会
事業実施期間	2004年～2009年		

### 第6回植林緑化派遣団参加者（9名）

氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
佐藤 晴男	当センター会長	矢吹 芳郎	㈱印刷センター	田辺 和司	自治労・香川
須田 吉隆	全労済	滝沢 誠	自治労・青森	鈴木 裕子	自治労・宮城
高橋 和實	明治安田生命	那須野 真樹	自治労・長野	石橋 朋子	IFCC



## 緑の架け橋推進センター第5回総会を開催

# 平羅・中衛での事業継続と植林派遣団など活動計画決定

緑の架け橋推進センターは、11月14日に東京・麹町会館において第5回総会を開催し、05年度の活動経過・決算を確認するとともに、新年度の活動にあたり「2006年度活動計画」及び「2006年度予算」を決定しました。また、新役員体制も確認されました。

### 【活動経過】

植林緑化派遣団については、第5回派遣団（13人）は2006年4月14日～20日の日程で中衛市での開工式を含む植林作業を、第6回派遣団（9人）は2006年10月14日～18日の日程で補植作業を行いました。

緑の架け橋推進センターが4年前から手がけた「寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト」については、2006年1月に実績報告書を提出し、3年計画の事業がすべて終了しましたが、寧夏回族自治区人民政府やカウンターパートである中華全国青年連合会からはこの取り組みが高く評価され、同じく寧夏回族自治区内の中衛市において後継の事業としての「日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト」をスタートさせることになりました。

この「日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト」は、日中緑化交流基金の認可のもと、2008年までの3年間で100ha ずつの植林事業を実施することとしており、初年度の今期は2006年4月に開工式を行い、100haに333,000本の植林を行いました。

昨年度から実施している「寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業」については、2期目の100haに556,600本の植林を行ってきています。

このほか、緑の架け橋推進センターとして拡大事務局会議（4回）、会報発行（第5号・第6号）、などの活動を行ってきています。

### 【2005年度収支報告】（予算05年11月15日～06年11月14日、実績05年11月15日～06年11月9日）

#### 収入

#### 支出

費目	予算(円)	実績(円)	摘要	費目	予算(円)	実績(円)	摘要
繰越金	0	0		事務所間借代	240,000	240,000	
会費	1,200,000	399,000	123口	通信・送料	140,000	119,730	
植林協力金	600,000	210,000	5回13口、6回8口	事務局費	520,000	148,528	一部未払い
賛助金	800,000	801,000	個人カンパ含む	事業費	150,000	50,000	
助成金	1,150,000	609,000		印刷代	280,000	130,809	一部未払い
会場費	200,000	161,000	総会、壮行会	備品・消耗品	10,000	0	
借入金	710,000	0		プロジェクト記費	1,979,000	800,000	一部未払い
雑収入	—	7,900	第4回派遣団団費剰余分	返済金	327,951	77,951	
合計	4,760,000	2,187,900		未払金	1,111,222	560,222	
				予備費	1,827	4,620	手数料など
				繰越金	0	56,040	
				合計	4,760,000	2,187,900	

### 【2005年度貸借表】単位・円

貸方				借方		借方の説明
通帳	0	郵便振替	0	預り金	250,000	立ち上げ資金
現金	56,040	助成金	552,000	プロジェクト記費	1,168,000	平羅県 691,000、中衛市 477,000
608,040円				未払い金	356,408	印刷代、会場代等
				借入金	0	
貸方－借方＝△1,166,368円				1,774,408円		



【2006年度活動計画】

I. 植林緑化派遣団の実施

第7回 2007年4月13日(金)～17日(火) 参加目標・最少20人  
 日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト第2期植林  
 寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業第3期植林  
 第8回 2007年9月下旬予定 参加目標・最少20人  
 平羅県・中衛市の両事業地における補植活動

※協力団体(労組)ごとに最低参加目標人数を設定して個別に相談していく。  
 ※参加目標数については年度トータルで40人の達成をめざす。  
 ※中国に訪問する団体のプログラムに寧夏での植林ボランティアを組み込んでもらうよう要請していく。

II. 会報の発行

会報第9号・・・総会報告及び第6回植林緑化派遣団報告(平羅県・中衛市の補植活動、紅寺堡の保育状況)。  
 会報第10号・・・第7回植林緑化派遣団報告(中衛市での第2期植林、平羅県での第3期植林の状況)。

III. 会員登録の推進

会員登録の目標として、120万円(3,000円×400口)の会費収入をめざして、個別の要請を行う。

IV. 植林協力金の要請

植林活動参加者1人の植林協力金を10,000円(植樹100本分)とし、年度の参加者数分(40万円)を目標とする。また、植林活動には参加できないが趣旨に賛同していただける個人・団体にも協力金を要請する。

V. 「緑の架け橋友の会」友好派遣団の実施

「緑の架け橋友の会」積み立てによる友好派遣団を第8回植林緑化派遣団の実施とあわせて企画していく。

【2006年度予算案】 06年11月11日～07年11月10日

収 入

支 出

費目	予算(円)	摘要	費目	予算(円)	摘要
繰越金	56,040		事務所間借代	240,000	
会費	1,200,000	400口	通信・送料	140,000	
植林協力金	400,000	40人	事務局費	500,000	総会、壮行会等
賛助金	800,000		事業費	150,000	中衛市開工式等
助成金	1,071,000	平羅県・中衛市事務経費	印刷代	300,000	会報作成(2回)
会場費	300,000	総会、壮行会	備品・消耗品	10,000	
借入金	1,280,000	IFCCより	プロジェクト費	2,001,000	プロジェクト会計へ
雑収入	8,960		返済金	250,000	
合計	5,116,000		未払金	1,524,408	
			予備費	592	
			合計	5,116,000	

【2006年度 プロジェクトの事業計画】

区 分	寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業		日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業		摘 要
	事業経費(千円)	内 容	事業経費(千円)	内 容	
植林	8,465	553,600本(100ha)	9,835	394,100本(100ha)	苗木購入、植え付けなど
保育	2,416	農薬・肥料等	2,465	農薬・肥料等	灌水、施肥、農薬散布、獣害防除
機材調達	233	農薬散布器、草刈機等	73		造林作業具、農薬散布機等
基盤整備	3,248	灌漑・水路整備	2,146	灌漑水路、ポンプ等	灌漑水路整備
事務経費	238	通信・印刷等	281	通信・印刷等	
技術者派遣	400	派遣旅費等	400	派遣旅費等	
その他	4,267	技術指導等	2,487	技術指導等	助成経費以外の経費
合計	19,267千円(うち助成15,000)		17,687千円(うち助成15,200)		



途中の車窓からの眺めは荒涼とした乾燥地帯・沙漠が続く限りである。ここは植林地に合わせて新しい町並みが形成されつつあるようだ。あまり管理が行き届いているとは言えず、植林したものを枯らしてしまったようだ。その代替として「ヒノキ」が植林されていた。

乾燥した沙漠地帯にヒノキが有効なのか、若干の疑問を抱く。なかなか日本の常識からは、判断のつかない実態である。また、相当に詰めた感じで植林してあるので、仮に順調に成長してもその後の管理が大変だろうと思われた。そのためか、地元全中連の説明では「監視小屋」を作り、管理を徹底していくとのことであった。



中衛市での補植活動 2006/10/15

### 10月16日(月) 平羅県の事業地で地元の方々と一緒に補植活動

天候は、素晴らしく予想以上に暖かく、風もなし。朝食後、石嘴山県平羅県に向かう。高速道路を離れ、見渡す限りの寒村地帯の農道をひた走る。黄河中流域の河岸にある「寧夏日中青年平羅県生態緑化林」に到着する。小さな記念館があり、今日までの植林派遣団の記念アルバムをみて、参加者一同で記念のサインをする。

ここは、乾燥化防止とともに黄河の土砂流失防止も兼ねているようだ。土壌は粘土質でかなり固そうである。地元の農民とボランティアの小学生との共同作業で「やなぎ」の木を植林する。植林区画を四方にとる独特の地割りをした植林地として整理されており、今回のなかでは管理体制・姿勢も含めると「一番」と思えた。地元全中連の説明からは熱いものが伝わってきた。



平羅県での補植活動 2006/10/16

この日は、タイムスケジュールの厳しいなか、受入先の全中連のご好意でチンギスハンに滅ぼされた「幻の王国」と言われている「西夏王陵」の見学が組み込まれ、中国4000年の歴史に少しですがふれることが出来ました。ご好意に感謝、感謝です。



終了した紅寺堡の保育状況を視察 2006/10/15

### 10月17日(火) 北京市内見学

昨夜、北京に戻る。天安門、盧溝橋の抗日記念館、万里の長城の見学をする。夜は、京劇の鑑賞。

経済成長とオリンピックを控えて市内は、建設ラッシュである。車とスモッグには少々の驚き。

### 10月18日(水) 帰国

一路成田へ。成田着後解団。それぞれに「手土産」一杯にして解散。



## 【2006年度の役員体制】敬称略・順不同

会長	佐藤 晴男 (前・総評会館理事長)
副会長	福田 精一 (全農林労働組合委員長)、佐藤 幸雄 (全水道労働組合委員長)、新田 豊作 (前・NHK労働議長)、豊島栄三郎 (政労連委員長)、君島 一字 (自治労副委員長)
技術相談役	丸山 建蔵 (総評会館理事長)、足立 則安 (全水道共済理事長)、阿部 保吉 (退職者連合事務局長)、君島 一字 (自治労副委員長)
常任委員	森下 和哉、岡崎 徹、井上久美枝、高端 照和、西山 啓二、西岡 裕、巾崎 光雄、鎌田 篤則、宮秋 道男、田中 毅、田中誠太郎、石川 昇、筒井 直樹、吉川 元
会計監査	小林 照明
顧問	村山 富市、重野 安正、又市 征治、菅野 哲雄、金子 哲夫、東門美津子、山本喜代宏
事務局長	石川 昇
事務局次長	高端 照和、田中 毅、山内幸一郎、鎌田 篤則

## 第6回植林緑化派遣団 (2006年10月14日～18日) 活動報告

第6回植林緑化派遣団は、10月14日(土)から18日(水)までの日程で実施され、総勢9名(参加者氏名は別掲)が参加しました。今回の派遣団の目的は、①中衛市での「日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト」の視察、②平羅県での「日中青年生態緑化林事業」における補植活動、③紅寺堡での「寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト」の保育状況の視察、の3つでした。

紙面の都合上、すべてを報告できないことが残念ですが、主な点のみを報告させていただきます。

### 10月13日(金) 結団式・壮行会

午後4時より派遣団の結団式と壮行会が東京・麹町にて開催される。

今回のメンバーは、事務局を入れて佐藤団長ほか9名。今回の派遣団の事業内容の説明、団員の自己紹介ののち、若干のアルコールも入り和気あいあいのうちに終了する。

### 10月14日(土) 北京経由で寧夏回族自治区・銀川市へ

成田に12時30分に、再集合し出国手続き等をすませ、一路北京へ向う。北京にて中国側タウンターパートである全中連国際部副部長と通訳と合流。国内線に乗り換えて、銀川市へ。銀川空港では、寧夏回族自治区の全中連の歓迎をうけ、現地ガイド・通訳とともに市内ホテルへ。深夜12時近くではあったがホテル近くの食堂で一杯まじえて、悠久の大地への一步をかみしめる。

### 10月15日(日) 中衛市のプロジェクト地を視察し、紅寺堡での保育状況を確認

さっそく、4月に取り組まれた植林状況の視察のため、午前中に中衛市の「日中青年寧夏中衛生態緑化プロジェクト」、午後「寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト」の視察に出発する。モータリゼーションの進む中国にあって、地方都市である銀川市も早朝のラッシュは、想像以上のものである。

西安に向う高速道路をひた走り、中衛市に到着。ポプラの木と経済林として植林された「ナツメ」の状況を視察する。乾燥した大地にしっかりとナツメの木は、根ずいておりりっぱに実をつけているようだ。宮城から参加の須田さんが味見をして確認。

トゲトゲした雑草があたり一面に生えており、ナツメの成長を妨げているようである。一同でこの「トゲトゲ雑草」の除去をする。あわせてポプラの枝打ちもする。ボランティアの地元の小学生と一時の交流会とる。

中衛市人民政府による歓迎昼食会ののち紅寺堡へ向う。

